

高度先進臨床口腔医学入門

Introduction to Highly Advanced Clinical Stomatology

キーワード

- ① 高度先進口腔医学
- ② 歯科補綴学
- ③ ミニマルインターベンション
- ④ 接着歯学
- ⑤ 有床義歯

授業概要

高齢化社会の中で大きく変化する疾病構造を通じて、口腔と全身のかかわりを理解し、歯の喪失や咬合の不調和によって引き起こされる顎口腔機能及び審美障害などの疾病に対する予防法、診断法、治療法に関する情報収集と分析が実践できる能力を養成することを目的に講義する。特に、最新のデジタルデンティストリーなどのトレンドな知見をテーマにした顎口腔機能及び審美障害に関する論文を題材に学修する。

授業科目の学修目標

歯の喪失や咬合の不調和によって引き起こされる顎口腔機能及び審美障害などの疾病に対する先進的な予防法、診断法、治療法に関する情報収集と分析が実践できることを目標とする。

授業計画

- ① 歯科補綴学の意義と診断学の基本
 - ・ 歯科補綴学の歴史と研究技術の進展 2コマ 井野智
 - ・ 歯科補綴学の基本 8コマ 井野智
- ② 日本歯科補綴学会における研究倫理規範の基本 4コマ 井野智
- ③ 歯科補綴学的臨床研究論
 - ・ 顎顔面形態論 4コマ 井野智
 - ・ 下顎運動論 2コマ 井野智
 - ・ 咬合力学論 4コマ 井野智
 - ・ 生体材料論 4コマ 井野智
 - ・ 補綴装置設計論 2コマ 井野智

教科書および参考書

歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン2008, 社団法人日本補綴歯科学会.
接着歯学 第2版, 医歯薬出版, 一般社団法人日本接着歯学会.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯科補綴臨床研究論では授業項目と歯科補綴学分野で発表された関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科補綴学の意義を理解し診断学の基本を説明できる。
- ② 歯科補綴学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 歯科補綴臨床研究論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	30%	30%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・ 試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・ レポートは、歯科補綴学的臨床研究論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・ 成果発表は、講座内での研究発表会にてプレゼンテーションを行い判定する。15%×2回=30%
- ・ 口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

高度先進口腔医学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。